

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子池袋本町保育園
施設所在地	豊島区池袋本町1-31-2
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

元々、昆虫を好んでいたが、夏季にカブト虫やおむしを育てたことでより昆虫や植物に興味を持っていた。図書館でアゲハ蝶の本を借りて、アゲハ蝶について保育者と子どもで調べていく中で、かんきつ系の植物を好み、卵を産んだり、葉を食べることを知り、キンカンの苗を購入して園庭の花壇に植えた。子ども達も、「これでまたあおむし来るかな」と期待を持っており、キンカンの水やりに意欲的だった。

2. 活動スケジュール

【花壇の工事完了と花壇での栽培】

9月26日 花壇の工事完了

9～10月 花壇の作成と土の整備を行った。

11月13日 スコップ等備品・苗・種など 購入

11月27日 スコップや軍手を使ってキンカン・黄桃・ローズマリーの苗木とスノーボールの苗を植えた。

【葉っぱの製作】

1月5日 収穫した葉っぱの製作を行った。

製作した葉っぱはお楽しみ会の表現遊び内の大道具として使用、披露した。

【キンカンスタンプを実施する】

1月15日 キンカンを収穫し、切って中身を観察したのちスタンプを行った。

実際に制作したものや収穫したキンカンは園の廊下に掲示して、保護者にも見てもらえるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

花壇の工事費用、土、種、球根（クロッカス・ローズマリー・スノーボール）、じょうろ、スコップ、柵、図鑑の購入

模造紙、絵の具、筆、ローラー、ポスカ、カラーペン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【葉っぱの製作】

園庭に遊びに出ると、つぼみができた様子や花が開いた様子を見て「描いてみたい」「(ブロックや年度で)作ってみたい」などと声があがるようになってきてきた。夏に青虫が葉っぱを食べていた時の様子を思い出し、絵の具などを使って葉っぱを製作した。製作した葉っぱはお楽しみ会の表現遊びの大道具として使用し、保護者にも見てもらえるように披露した。

【キンカンスタンプを実施する】

苗木についているキンカンの実を見ると、夏に製作を行なった野菜スタンプを思い出しながら子どもから「キンカンのお腹を見たい」と言っていた為、キンカンの実を収穫し、キンカンを切って断面を観察した。においや断面の様子を楽しんだのち、中の種を子ども達が出して、スタンプ遊びを行った。

スタンプに使用する絵の具は子どもが自分で黄色を選び、使用している。絵の具のつけ方や、断面によってスタンプしたときの模様に変化があり、楽しんでスタンプしていた。

植物の図鑑を部屋に設置し、いつでも見られるようにした為、キンカンのスタンプを行なった後は、子ども同士で話し合いながら図鑑を見るようになり「見た目も匂いもオレンジに似てたね」「食べてみたい」「お家でも食べてみたよ」などと会話をするようになった。

園庭で自分たちで植物を育てる事で自然物の成長に興味を持ち始めおり、物や道具を使って表現したい気持ちが芽生え始めている。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【葉っぱの製作】

夏にお世話していたあおむしが食べていた葉を思い出したり、園庭に植えたキンカンの葉をイメージして製作を行った。使用する絵の具の色も子どもたちが「緑かな」「茶色いところもありそう!」と会話をしながら選択し、筆やローラーを使用して製作した。ローラーの模様を見て、「葉っぱの模様が出来た!」とイメージを伝えたり、色を混ぜることでよりイメージした葉に近づくことが分かり、考えながら色を作っていた。絵の具が乾いた後は保育者と一緒に葉っぱの形に切った。

【キンカンの製作】

キンカンの中身に興味を持っており、水やりの度に「もう取れるかな?」と期待を持っていた為、保育者が目の前でキンカンを切り、断面を見せると興味を示していた。切り方を変えたことで、断面の違いに興味を持ち、匂いを嗅いだり、種や断面を観察していた。匂いを嗅ぐと、「いいにおい!」「この匂い知ってる!」と声上がり、種を取り除く際に手にキンカンの果汁が着くと、「手からキンカンの匂いがする」と喜び、何度も匂いを嗅いだり、保育者に手のひらを見せて「いい匂いだよ、嗅いでみて」と香りを共有する姿が見られた。

断面に絵の具をつけてスタンプを行うと、断面による模様の変化に気づき、友だちのスタンプと見比べてたりして楽しんでいた。スタンプした画用紙にも香りが移っているのか匂いを嗅いでみたり、スタンプだけでなく、キンカンを滑らせたときの模様の付き方の変化にも興味を持っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは自然は好きだったがこれまでは戸外活動でしか自然との触れ合いができなかった。興味を持って、自由に触ったり摘んだりする事ができず、「触らないよ」「見るだけだよ」と伝えるばかりになってしまい、子どもの興味を広げていくことが難しかった。

園庭や花壇を整備して自分たちの植物を育てていくことでより自然を身近に感じられる環境を整備することができた。

あおむしを育てたことで、より身近な植物に興味を示すようになり、植物の香りや感触、成長過程を楽しめるようになってきた。毎日の水やりも楽しんで行っており、芽が出たり、花が咲くと嬉しそうに他児や保育者と喜びを共有している。

園内で植物を育てることで、自由に触れ合いが始まると思いきや、「自分たちの園のものだから」「花が咲きそうだから触らない」という声が挙がり、植物を大事にしようという気持ちが芽生え、むやみに触らなくなった。

キンカンの栽培では、果実の中身がどのようなになっているのか気になっていたため、中身を見ることが出来て嬉しそうな様子だった。また、キンカンの匂いに子ども達の興味があり、キンカンの香りや手に着いた香りに喜んでいた為、異なる植物の匂いを比べたりする活動にも繋がられるのではと感じた。他の植物はまだ花が咲いていないものも多いが、葉の匂いや土の匂いを比べたり、出来ることから行うことで子どもの興味を汲み取り、興味を深めていけるように活動を工夫していく。

また、様々な道具を使いながら表現をするを楽しむようになってきたので、素材によってどのように色が付くかなども経験できるようにしていく。

キンカンの苗や黄桃の苗は長期的な栽培になるが、栽培した木や苗を中心に枯れ葉や大きめの石等を設置し、土の中で息する虫なども住みつける環境も作っていく事で新しい虫や生き物が増えることで、栽培や生育状況の観察の幅を広げていけるようにしていきたい。